

くすりと健康のはなし

薬包紙

第149回

薬局機能委員会委員

一般社団法人岐阜県薬剤師会

中西 彩



生活習慣病の一つである「糖尿病」ですが、今年の大河ドラマ「光る君へ」に登場している藤原道長も糖尿病だったといわれています。（諸説あります）

道長と同じ時代を生きた藤原実資による「小右記」には、道長は50歳頃からしきりに水を飲み、2年後には急に痩せて目も不自由になり、時々胸の痛みに苦しんだと記されています。当時の医師に、消渴しょうかつと診断されており、これは今でも漢方医学の診断名としてありますが、糖尿病のことです。

平安時代の貴族の食事は、米を主食とし、主菜や副菜、デザートまでついた豪華なものであり、糖度の高いお酒をたくさん飲んでいたようです。当時は、2型糖尿病の治療の基本である食事療法と運動療法が不十分であり、治療薬もなかったため、症状が進行していくばかりでした。

しかし、現在では血糖値を下げるホルモンであるインスリンなどの注射薬や、インスリンの分泌を高めたり、食事に含まれる糖の吸収を抑えたり、尿中に余分な糖を排出するといった様々な内服薬があります。

薬が不足？糖尿病治療薬のいま

糖尿病治療薬の中には、血糖値を下げる効果だけでなく、体重減少効果や心臓や腎臓を守る効果のある薬剤もあり、様々な疾患の方に使用されています。最近ニュースにもなっているのでご存知の方もみえると思いますが、糖尿病治療薬の中でも体重減少効果が期待できる薬剤を、糖尿病でない人がダイエット目的で自費購入するケースが増えてきています。

日本ではそのような使い方は承認されておらず、安全性や有効性は確認されていません。また、薬の需要と供給のバランスに影響を与え、糖尿病治療が不可欠な人の手に薬が渡らず、薬不足の状態を引き起こす要因の一つともなっています。

どんな薬にも副作用があるため、SNSの様々な情報を鵜呑みにしたり、捜せたいという軽い気持ちで購入することは危険です。困っていることや気になることは、かかりつけ薬剤師、近くの薬局の薬剤師に相談してください。

